

片麻痺上肢評価 5分フロー記録シート

作業目標から逆算し、FMA-UE・ARAT・WMFT・巧緻性評価を必要最小限で選ぶための記録シート

基本情報

患者ID		評価日	
評価者		フェーズ	☐ 急性期 ☐ 回復期 ☐ 生活期
主な作業目標			

前提・安全確認

確認項目	確認	メモ
体調・安全面を確認する	☐	
疼痛・疲労・注意の影響を確認する	☐	
姿勢・支持・机面など実施条件を確認する	☐	
今回の評価目的と作業目標を共有する	☐	

※ 標準化尺度は各尺度の実施手順に従い、実施できなかった場合は理由を記録します。

評価選定 5分フロー

1. 作業目標

今回、上肢評価で答えたい作業上の問いを1行で書く
例：上衣更衣で麻痺手を補助手として使える条件を確認する

2. 評価層を選ぶ

作業を観察し、今回の意思決定に必要な層だけチェック

選択	評価する層	主な候補	判断の焦点
☐	運動機能障害	FMA-UE	運動機能障害を系統的に追う
☐	物品操作・活動能力	ARAT	把持・つまみ・到達などの課題遂行を見る
☐	時間・動作能力	WMFT	所要時間と動作能力の変化を詳しく追う
☐	巧緻性	NHPT / Purdue	細かな手指操作・両手協調が意思決定を左右する
☐	実際の作業	作業観察	生活場面で使える条件・使えない条件を確認する

3. 最小セット

主尺度1本＋必要な補助評価に絞る
主尺度：_____ 補助評価：_____
目安：機能＋活動を両方追う場合はFMA-UE＋ARAT が基本候補。目的が違えばWMFT 等へ切り替える。

4. 条件固定

再評価で比較できるよう、条件の差を短く残す
姿勢：_____ 支持：_____ 用具：_____ 合図：_____
実施不可・例外の理由：_____

5. 作業へ戻す

尺度結果を作業場面へ戻し、次の介入まで1行でつなぐ

尺度結果	作業での変化	次の一手

再評価メモ

今回のまとめ

次回に確認すること